



平成24年8月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	51,059,708 万円	100.0%	102.3% (99.9%)	48,839,605 万円	99.0% (96.7%)
食 料 品	42,650,379 万円	83.5% (82.5%)	102.1% (99.9%)	40,880,649 万円	99.0% (96.9%)
農 産	6,004,254 万円	11.8% (11.7%)	100.7% (99.9%)	5,990,526 万円	98.0% (97.0%)
水 産	4,062,605 万円	7.9% (8.2%)	99.6% (99.7%)	3,871,143 万円	96.4% (96.6%)
畜 産	4,607,149 万円	9.0% (9.0%)	102.8% (101.1%)	4,383,184 万円	99.3% (97.6%)
惣 菜	4,935,273 万円	9.7% (9.0%)	103.8% (101.0%)	4,696,305 万円	100.0% (97.4%)
日配食品	9,494,823 万円	18.6% (18.6%)	102.0% (98.6%)	8,970,784 万円	98.9% (95.9%)
加工食品	13,546,275 万円	26.5% (26.0%)	102.8% (100.2%)	12,968,707 万円	99.8% (97.3%)
生活関連	3,571,361 万円	7.0% (7.2%)	100.6% (96.0%)	3,435,018 万円	97.9% (93.2%)
衣 料 品	1,638,937 万円	3.2% (3.9%)	103.4% (97.9%)	1,565,301 万円	100.1% (94.9%)
そ の 他	3,199,031 万円	6.3% (6.4%)	105.4% (104.8%)	2,958,637 万円	99.7% (99.1%)

② 数 値

全店総売上高	51,059,708 万円	店 舗 数	4,293 店舗
総売場面積	8,356,657.8 m ²	総従業員数	227,161 人

店舗平均月商	11,893.7 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,789 円 (99.4%)
月間m ² 売上(前月)	6.1 万円 (5.9 万円)	平均店舗面積	1,946.6 m ²
月間坪売上(前月)	20.2 万円 (19.7 万円)	パート比率(前月)	77.5% (77.1%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 8月全体を通して猛暑が続き、お盆明けになると例年涼味商品の動きが鈍るが大きく伸びた
- ・ 昨年の震災対応時から、昨年不振だった商材が軒並み前年を上回り、好調な商材が不振となった
- ・ 8月を通して、全体的には高額商品から低価格商品への購買需要のシフト、競合との価格競争は依然として続いており利益の確保が厳しい状況だった
- ・ 本年のお盆は、帰省客が11日～15日の前半と16日～19日の後半に分散したようだ。高速道路の割引による土日を絡めての帰省が主流となったことから12日（日）が最大ピークになった。13日、14日は低迷した

《 商品動向 》

○ 農産

- ・ 野菜は、トマト、レタス、きゅうり、キャベツ等のサラダ商材の相場安で、販売数量はアップしたが単価ダウンとなり売上を落とした。とうもろこし、枝豆、玉ねぎは好調だった
- ・ 相場安の影響受け、きのこ類、葉物も売上を落とした
- ・ 果物は、暑い日が続いたことで糖度も高く、スイカ、なし、桃、ブドウが好調だった

○ 水産

- ・ 生サンマは、水温が高かった影響で例年よりも入荷状況が少なく、相場も高値が続いた。魚体は大型が中心で1尾単価が高く販売しづらく、売上をつくれなかった
- ・ 鮭鱒関連は相場安もあり好調だったが、魚卵は大きく前年実績を下回った

○ 畜産

- ・ 昨年は、震災後の放射性セシウムの影響を受け不振だったが、裏年でもあり、猛暑の影響もあり国産牛、輸入牛ともにステーキ、焼肉商材が伸長した
- ・ 豚肉、鶏肉は、昨年の反動と猛暑の影響で売上は低調だった
- ・ 加工肉は、バーベキュー需要やお盆需要等でウインナーやフランクフルト等の商材は伸びたが、加工肉全体は不振だった

○ 惣菜

- ・ 猛暑、節電の影響もあって家庭内調理の機会が減ったことが影響してか、米飯、天ぷら、チキン、フライを中心に好調だった
- ・ 気温が例年になく高く推移したことで、涼味関連（冷やし中華、ざるそば等）の売上が好調だった

○ 日配・加工食品

- ・例年のない猛暑の影響で、涼味関連商材である、アイス、冷やし中華、飲料、デザートが好調だった。逆に、パン、牛乳、練物は前年割となった
- ・野菜の相場安と8月上旬の白菜浅漬けO-157報道の影響で漬物類は、不振だった
- ・猛暑により、涼味関連商材である乾麺、つゆ、飲料、ビール、ノンアルコール飲料等は軒並み好調だった。
- ・新米の相場が高く、昨年発生した特需の影響もあり、米が不振だった
- ・雨の日が極端に少なかったことで、UV商材、制汗剤、シャンプー、トリートメント等が好調だった

○ 「お盆商戦」について

- ・刺身、寿司、煮しめ、赤飯等のお盆商材は、即食系の惣菜部門の商品が伸び、例年以上に日配の素材型商品の落ち込みが大きかった
- ・盆花は、12日をピークに売上を伸ばしたが、13日の需要は伸びなかった。昨年と比べ前倒し傾向だった

○ 「サマーギフト」について

- ・猛暑の影響もあり、ビールギフトを中心に動向が良かった。その他にカルピス、ボトル飲料、涼味、乾麺ギフトが好調だった。一部品薄状況から欠品した商品もあった
- ・生鮮の果物ギフトは、猛暑が続いたことで食味も良く、値頃で贈答用・自宅用も含め好調だった

○ 「オリンピックの対応」について

- ・7月同様に飲料、ビールを中心にロンドンオリンピックのオフィシャルスポンサーと組んでの集合展開を実施し、動向も良かった
- ・イギリスフェアとしてジャム、紅茶、クッキーを集合展開したが不調に終わった
- ・オリンピック終盤になって日本人選手の活躍から珍味や練製品等のおつまみ、ビールが好調だった

以上